

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録（2014.12）平成25年度:59-60.

人工股関節置換術患者への退院支援の課題

原谷 香織, 佐藤 菜穂美, 清水 直人, 井戸川 みどり

人工股関節置換術患者への退院支援の課題

旭川医科大学病院 8階西ナーステーション ○原谷 香織、佐藤菜穂美、清水 直人、井戸川みどり

キーワード：THA 患者 退院支援

I. はじめに

全人工股関節置換術（以下 THA とする）は術後合併症として脱臼があり、予防のため肢位制限を組み込んだ日常生活動作の獲得や、環境調整が必要となる。A 病棟ではプライマリーナースが中心となり退院支援を行っているが、介入の遅れや指導に差が生じている。そこで、THA 患者に対して A 病棟看護師が感じている退院支援の現状を明らかにし、患者が目標としている生活に近づくための退院支援の課題を検討する。

II. 研究方法

1. 研究対象：A 病院整形外科病棟に勤務する看護師で、研究の目的を説明し、研究協力を得られた看護師 8 名。
2. 方法：研究に同意が得られた看護師に対して、半構成的面接を行う。面接内容は IC レコーダーに録音する。面談内容は福島道子らの「入院時から始める退院支援・調整 第 2 版」を基に、11 項目からなる独自の質問を作成し、退院支援の実施内容について一人約 30 分以内の面談とする。
3. 分析方法：面接内容を逐語録とし、カテゴリー化した。質的研究の経験者によるスーパーバイズを受けた。
4. 倫理的配慮：対象者に研究目的、プライバシーの保護、いつでも拒否できること、拒否に不利益が生じないことを口頭並びに書面にて説明、同意を得た。また、本研究は倫理委員会の承認を得た。

III. 結果・考察

調査対象は看護師 8 名であった。経験年数は 1～3 年目 3 名、3～6 年目 4 名、7 年目以上 1 名であった。分析の結果、5 カテゴリー、18 サブカテゴリー、全 337 コードが抽出された。5 カテゴリーは【必要な情報の収集が不十分である】【看護師間の連携が不十分である】【家族への退院支援が不十分である】【他職種との連携が不十分である】【退院支援において患者の参加が重要であると感じている】であった。宇都宮は、退院支援・調整のプロセスを三段階に分けて考えることが重要であると述べている。（以下三段階プロセスとする）¹⁾。A 病棟における THA 患者への退院支援を三段階プロセスで考え

ると、【必要な情報の収集が不十分である】は、第一段階の患者のスクリーニングにつながる。入院時から退院を見据えた情報収集が十分に行えていないことや、個人で情報収集の視点が異なっていることが要因として考えられる。【看護師間の連携が不十分である】【家族への退院支援が不十分である】【他職種との連携が不十分である】は、第二段階であるケア継続のための看護介入とチームアプローチにつながる。プライマリーナースが退院支援の責任を負う傾向にあることや必要な情報収集が不十分であること、週 1 回の他職種カンファレンスが効果的に実施できていないことが要因として考えられる。【看護師間の連携が不十分である】【他職種との連携が不十分である】は、第三段階である地域の関係職種との連携にもつながる。A 病棟では社会福祉士との連携が主体であるが、連携の調整までプライマリーナースに頼っていることが要因として考えられる。また、在宅サービスに対して知識が不足しているという意見も多く、個人の知識不足も関係していると考えられる。三段階プロセスを実践することで効果的に退院支援が進み、患者中心の看護の実現につながる。A 病棟の強みは【退院支援において患者の参加が重要であると感じている】であり、患者中心の退院支援を目指していく。THA 患者は脱臼予防のために生活様式の変更が必要であり、サポートが重要である。今後は入院時から退院後を見据えた情報収集の方法を検討し、チームで情報を共有する。他職種カンファレンスでは、患者の思いを反映できる体制の見直しや他職種と連携し、在宅サービスへの調整を行うため、看護師間の連携強化と知識向上が必要である。

IV. 結論

1. A 病棟看護師が感じている現状として【必要な情報の収集が不十分である】【看護師間の連携が不十分である】【他職種との連携が不十分である】【家族への退院支援が不十分である】【退院支援において患者の参加が重要であると感じている】のカテゴリーが抽出された。
2. 課題は、患者を中心とした退院支援を行うために、入院時から退院を見据えた情報収集の方法を検討

し、チームで情報を共有することである。また、患者の思いを反映できるように、他職種カンファレンスの体制を見直す必要がある。

引用・参考文献

- 1) 宇都宮宏子：病棟から始める退院支援・退院調整の実践事例，株式会社日本看護協会出版社，P11-37，2011
- 2) 福島道子 河野順子：入院時から始める退院支援調整第2版，日総研，P155-159，2010